

Iwatani

2026年3月期第2四半期 決算説明資料

2025年11月20日

岩谷産業株式会社

〔証券コード 8088〕

(見通しに関する注意事項)
将来にわたる部分につきましては、予想に基づくものであり、確約や保証を与えるものではございません。
当然のことながら、予想と違う結果と成ることがあることを十分にご認識の上ご活用ください。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

1. 2026年3月期第2四半期 決算概況

- 決算ハイライト
- 連結経営成績
- 連結経営成績（セグメント別）
- セグメント別営業利益分析
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー計算書

2. 2026年3月期 通期業績予想

- 通期業績予想
- セグメント別見通し
- 株主還元方針

3. 中期経営計画「PLAN27」の進捗

- 中期経営計画「PLAN27」重点施策の進捗

2026年3月期第2四半期 決算概況

2026年3月期 第2四半期 決算ハイライト

Iwatani

▶ 売上高は増収。営業利益、経常利益は減益となったものの、中間純利益は増益。

2026年3月期 第2四半期 決算概要

- 増収要因：L P ガス輸入価格の低下に伴い、販売単価が下落したものの、マテリアル事業を中心に工業分野向け商品の出荷が堅調に推移し、増収。
- 減益要因：L P ガスの市況要因やヘリウムの収益性低下により減益。
- 通期業績予想：変更なし

※コスモエネルギーホールディングスの株式追加取得にかかる、「負ののれん」の金額が確定したため、2025年3月期 第2四半期の経常利益、中間純利益が、昨年発表した金額から、それぞれ16億45百万円減少しています。
本資料に記載されているデータは全て、上記内容を反映しています。

売上高	4,091 億円	前年同期比	+91億円 (+2.3%)
営業利益	107 億円	前年同期比	▲53億円 (▲33.3%)
経常利益	180 億円	前年同期比	▲26億円 (▲12.8%)
中間純利益	203 億円	前年同期比	+68億円 (+51.1%)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

3

前期に行ったコスモエネルギーホールディングス（株）（以下：コスモエネルギーHD）の株式追加取得にかかる、「負ののれん」の金額が確定したため、前年中間期の経常利益、中間純利益が、昨年発表した金額から、それぞれ16億45百万円減少しています。

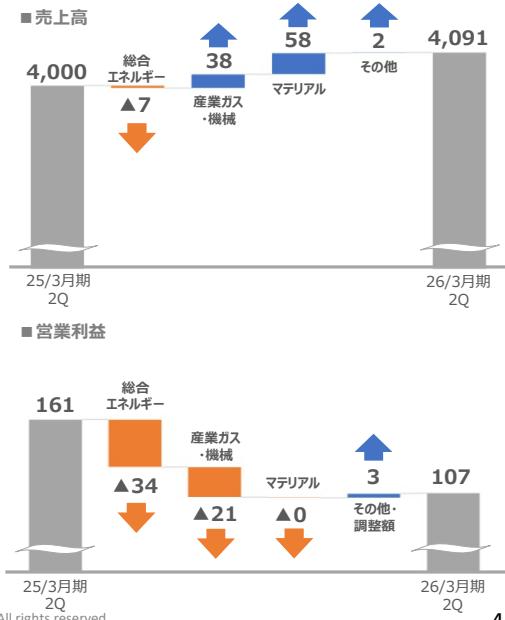
本中間決算は、対前年で売上高は増収、営業利益、経常利益は減益となりましたが、中間純利益は増益となりました。

連結経営成績

Iwatani

(単位: 億円)

	2026/3月期 2Q 実績	2025/3月期 2Q 実績	増減額 (増減率)	2026/3月期 通期見通し	進捗率
売上高	4,091	4,000	+91 (+2.3%)	9,364	43.7%
売上総利益	1,065	1,066	▲0 (▲0.1%)	-	-
営業利益	107	161	▲53 (▲33.3%)	491	21.9%
市況要因除く 営業利益	138	171	▲33 (▲19.3%)	491	28.3%
営業外損益	72	44	+27 (+61.0%)	-	-
コスモエネルギー HDに関連する 持分法投資損益	47	19	+28 (+146.3%)	106	-
経常利益	180	206	▲26 (▲12.8%)	631	28.5%
親会社株主に帰属 する中間純利益	203	134	+68 (+51.1%)	488	41.6%



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

4

売上高は、マテリアル事業を中心に工業分野向け商品が堅調に推移したことに加え、新規連結の影響により、91億円、2.3%増収の4,091億円となりました。

売上総利益は、ヘリウムの収益性が低下したことや、LPGガスの市況要因が、対前年で20億66百万円のマイナス影響となり、78百万円、0.1%減益の1,065億円となりました。

販管費は、減価償却費や人件費の増加等により、53億円増加したことで、営業利益は53億円、33.3%減益の107億円となりました。

営業外損益は、コスモエネルギーHDの持分法投資利益が47億円計上されたこと等により、前年同期比で、27億円の収益改善となりました。

この結果、経常利益は、26億円、12.8%減益の180億円となりましたが、中間純利益は、旧東京本社の売却による固定資産売却益を計上したこともあり、68億円、51.1%増益の203億円となりました。

連結経営成績 (セグメント別)

Iwatani

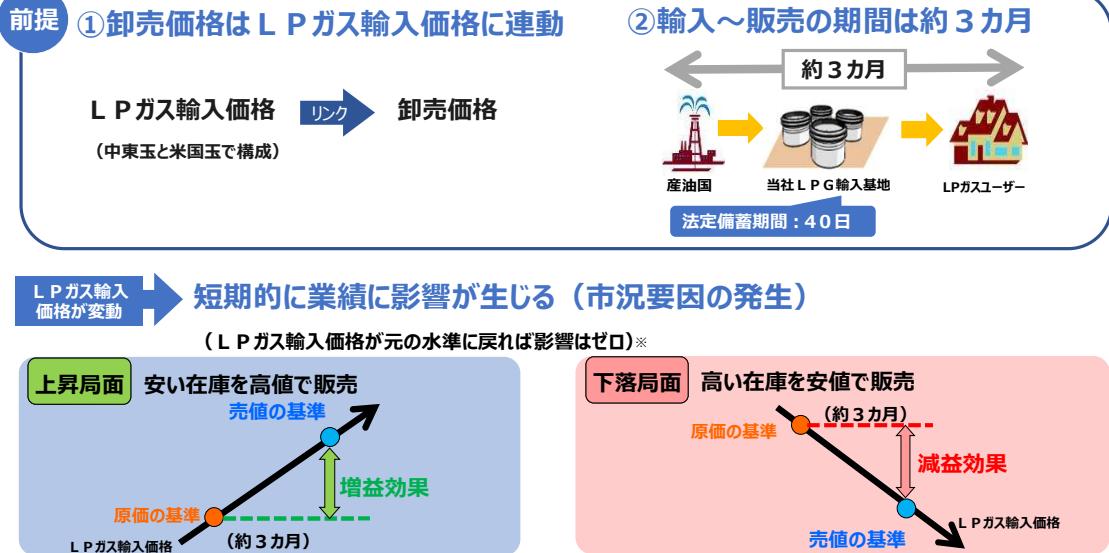
(単位: 億円)

	2026/3月期 2Q 実績	2025/3月期 2Q 実績	増減額	増減率	2026/3月期 通期見通し	進歩率
売上高	4,091	4,000	+91	+2.3%	9,364	43.7%
■ 総合エネルギー事業	1,564	1,572	▲7	▲0.5%	4,060	38.5%
■ 産業ガス・機械事業	1,324	1,285	+38	+3.0%	2,759	48.0%
■ マテリアル事業	1,049	991	+58	+5.8%	2,235	47.0%
■ その他	152	150	+2	+1.5%	310	49.1%
営業利益	107	161	▲53	▲33.3%	491	21.9%
■ 総合エネルギー事業	▲2	32	▲34	-	219	-
■ 産業ガス・機械事業	58	79	▲21	▲27.1%	188	31.0%
■ マテリアル事業	60	61	▲0	▲1.0%	129	47.1%
■ その他・調整額	▲9	▲12	+3	-	▲45	-
市況要因を除く営業利益	138	171	▲33	▲19.3%	491	28.3%
(コスモエネルギーHDに関連する持分法投資損益)	47	19	+28	+146.3%	106	-
経常利益	180	206	▲26	▲12.8%	631	28.5%
親会社株主に帰属する中間純利益	203	134	+68	+51.1%	488	41.6%

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

LPガス輸入価格の変動による増減益効果（イメージ）

Iwatani



LP ガスの輸入価格の変動が、業績に与える影響について、簡単に説明いたします。

当社は、LP ガスを中東と米国から輸入しており、輸入価格の変動による収益への影響を平準化するため、多くの卸売先との間で販売価格を元の輸入価格に連動させる価格体系としています。

一方、在庫評価については、「先入れ先出し法」を採用していますが、LP ガスの輸入から販売まで、法定備蓄期間 40 日を含めて、約 3 カ月かかるため、販売する時点では、約 3 ヶ月前に仕入れた在庫を、販売することになります。

この結果、LP ガス輸入価格の上昇時には、安い原価の在庫を高く売ることになる一方、下落時には、高い原価の在庫を安く売ることになります。これらの影響を、「市況要因」と呼んでいます。

セグメント別営業利益分析（総合エネルギー事業）

Iwatani

(単位：百万円)

決算実績

	2026/3月期 2Q 実績	2025/3月期 2Q 実績	増減額	増減率	2026/3月期 通期見通し	進捗率
売上高	156,492	157,263	▲770	▲0.5%	406,000	38.5%
営業利益	▲211	3,270	▲3,482	-	21,900	-
市況要因除く 営業利益	2,911	4,327	▲1,416	▲32.7%	21,900	13.3%

主な営業利益増減要因

■市況要因 ▲2,070

(億円)	1Q	2Q	上期 累計	3Q	4Q	通期 累計
当期	▲11.8	▲19.4	▲31.2	-	-	-
前期	▲0.7	▲9.8	▲10.5	+3.6	+9.1	+2.1
差異	▲11.1	▲9.6	▲20.7	-	-	-

■小売 +80

・新規連結の影響もあり販売数量が増加

■卸売 ▲780

・LPガス販売数量の減少

■工業用 ▲110

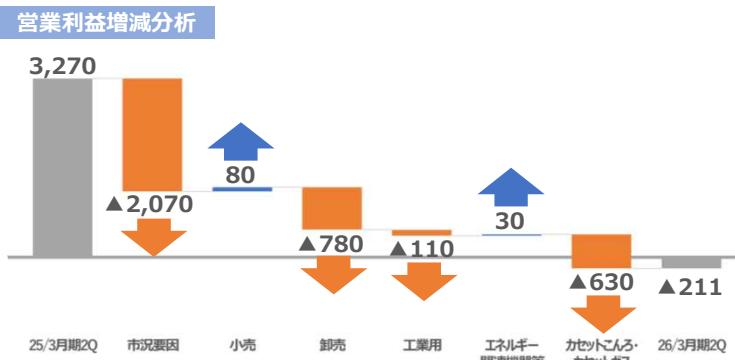
・取引先の拡大により販売数量が伸長も、コストが上昇

■エネルギー関連機器等 +30

・給湯器や工事等の売上が堅調

■カセットこんろ・カセットガス ▲630

・国内および、中国での販売が低調



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

7

総合エネルギー事業は、エネルギー関連機器等の販売が堅調に推移しましたが、LPガス輸入価格が前年を下回り、販売価格が低下したことでの売上高は7億円減収の、1,564億円となりました。

一方、利益面においては、LPガスの卸売部門で販売数量が減少するとともに、市況要因が前年同期比20億66百万円のマイナス影響となりました。

また、中国における景気減速の影響により、カセットこんろ・ボンベの販売が低調に推移した結果、営業利益は34億円減益の2億円の損失となりました。

なお、市況要因を除いた営業利益は29億円で14億円の減益となりました。

セグメント別営業利益分析（産業ガス・機械事業）

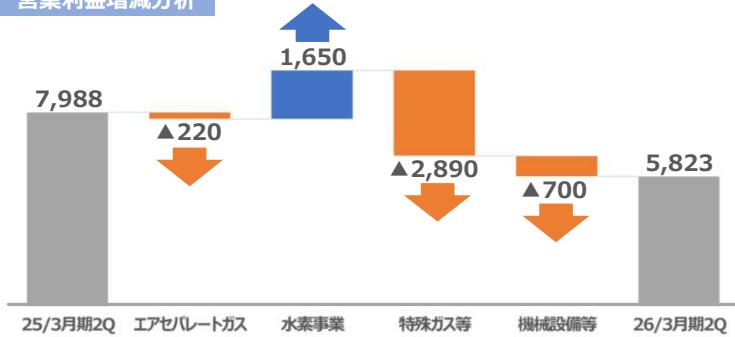
Iwatani

(単位：百万円)

決算実績

	2026/3月期 2Q 実績	2025/3月期 2Q 実績	増減額	増減率	2026/3月期 通期見通し	進捗率
売上高	132,447	128,583	+3,864	+3.0%	275,900	48.0%
営業利益	5,823	7,988	▲2,165	▲27.1%	18,800	31.0%

営業利益増減分析



主な営業利益増減要因

■エアセパレートガス ▲220

・中国で内需が低迷し、収益性が低下

■水素事業 +1,650

・水素ガスや水素関連設備の販売が増加

■特殊ガス等 ▲2,890

・ヘリウム市況が軟化し、収益性が低下

■機械設備等 ▲700

・自動車業界・半導体業界向け設備の販売が減少

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

8

産業ガス・機械事業は、水素ガスや関連設備の販売が増加した一方、中国において、エアセパレートガスの需要が低迷し、収益性が低下しました。

また、特殊ガス等は、ヘリウムにおいて、供給過多の状況が昨年より続いています。中国経済の悪化により市況軟化が進み、近隣の国にも波及したこと、収益性は低下しました。

機械設備については、自動車業界・半導体業界向け設備の出荷が減少しました。

この結果、売上高は38億円增收の1,324億円となり、営業利益は21億円、27.1%減益の58億円となりました。

セグメント別営業利益分析（マテリアル事業）

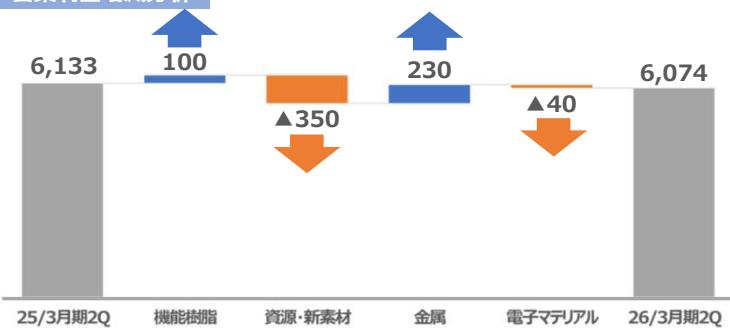
Iwatani

(単位：百万円)

決算実績

	2026/3月期 2Q 実績	2025/3月期 2Q 実績	増減額	増減率	2026/3月期 通期見通し	進捗率
売上高	104,955	99,155	+5,800	+5.8%	223,500	47.0%
営業利益	6,074	6,133	▲59	▲1.0%	12,900	47.1%

営業利益増減分析



主な営業利益増減要因

■機能樹脂 +100

- ・低環境負荷PET樹脂の販売数量が増加
- ・樹脂製品の売上が堅調

■資源・新素材 ▲350

- ・安定供給に努め、レア・アース等の販売が伸長
- ・ミネラルサンドは豪州の自社鉱区での収益性が悪化

■金属 +230

- ・ステンレスが新規連結の影響により販売増加

■電子マテリアル ▲40

- ・機能性フィルムの売上が低調

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

9

マテリアル事業は、レア・アース等は中国の輸出規制が継続する中、安定供給に努めたことにより、販売が増加しました。

加えて、低環境負荷PET樹脂の販売数量が増加し、ステンレスの販売が、新規連結の影響により、堅調に推移しました。

一方で、ミネラルサンド事業は豪州自社鉱区の収益性が悪化し、また、スマートフォン向けを中心に機能性フィルムの売上が低調となりました。

この結果、売上高は58億円增收の1,049億円となり、営業利益は59百万円、1.0%減益の60億円となりました

連結貸借対照表

Iwatani

(単位：億円)

	2025年 9月末	2025年 3月末	増減額	主な増減理由・備考
流動資産	2,977	3,284	▲307	売上債権の減少
(有形固定資産)	2,388	2,402	▲13	
(無形固定資産)	498	486	+12	
(投資その他の資産)	2,640	2,557	+82	投資有価証券の増加
固定資産	5,526	5,445	+80	
総資産	8,504	8,730	▲226	
(流動負債)	2,269	2,549	▲280	支払手形及び買掛金の減少
(固定負債)	2,133	2,208	▲75	長期借入金の返済
負債	4,402	4,758	▲356	有利子負債 2,533億円 (▲110億円) 有利子負債依存度 29.8%
(自己資本)	3,985	3,860	+125	自己資本比率 46.9%
(非支配株主持分)	115	111	+4	
純資産	4,101	3,972	+129	
負債・純資産	8,504	8,730	▲226	

※2026年3月期中間連結会計期間において、アイエスジーの全株式取得に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、
2025年3月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映しています。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

10

前期に行ったアイエスジー（株）の全株式取得にかかる、「のれん」の金額が確定したため、前期末の総資産などを、今年5月に発表した金額から修正しています。

主な財政状態については、9月末の総資産が前期末比226億円減少の8,504億円となりました。

自己資本は、前期末比125億円増加の3,985億円となり、自己資本比率は2.7ポイント増加し、46.9%となりました。

有利子負債は、旧東京本社の売却による収入もあり、
前期末比110億円減少の2,533億円となり、
有利子負債依存度は0.5ポイント改善し、29.8%となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

■ 営業キャッシュ・フローは230億円の収入。投資キャッシュ・フローは、有形固定資産の売却等による収入があったものの、産業ガスプラントや LP ガスセンターの能力増強により27億円の支出となった結果、フリー・キャッシュ・フローは203億円の収入。

(単位：億円)

	2026/3月期 2Q 実績	2025/3月期 2Q 実績	前年差 (増減額)
営業キャッシュ・フロー	230	132	+97
投資キャッシュ・フロー	▲27	▲308	+281
フリー・キャッシュ・フロー	203	▲176	+379
財務キャッシュ・フロー	▲219	101	▲321
換算差額等 ※1	▲1	20	▲22
現預金等の増減額 ※2	▲17	▲53	+36
現預金等の期首残高	275	336	▲60
現預金等の期末残高	258	282	▲23

※1 「換算差額」「連結の範囲の変更に伴う増減額」「非連結子会社との合併に伴う増加額」の合計を表示しております

※2 「現預金等の期首残高」と「現預金等の期末残高」の差額を表示しております

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

11

キャッシュフローについては、営業キャッシュフローが、利益や減価償却等による収入と法人税等の支払いにより、230億円の収入となりました。

投資キャッシュフローは、旧東京本社の固定資産売却等に伴う収入がありましたが、設備投資等により27億円の支出となり、結果、フリー・キャッシュフローはプラスの203億円となりました。

財務キャッシュフローについては、配当金の支払い等により219億円の支出となりました。

2026年3月期 通期業績予想

2026年3月期 通期業績予想

Iwatani

	2026/3月期 予想	2025/3月期 実績	増減額	増減率
売上高	9,364	8,830	+533	+6.0%
■ 総合エネルギー事業	4,060	3,787	+272	+7.2%
■ 産業ガス・機械事業	2,759	2,714	+44	+1.6%
■ マテリアル事業	2,235	2,016	+218	+10.8%
■ その他	310	310	▲0	▲0.3%
営業利益	491	462	+28	+6.2%
■ 総合エネルギー事業	219	195	+23	+12.2%
■ 産業ガス・機械事業	188	175	+12	+7.0%
■ マテリアル事業	129	117	+11	+9.8%
■ その他・調整額	▲45	▲26	▲18	—
市況要因を除く営業利益	491	460	+30	+6.7%
(コスモエネルギーHDに関連する持分法投資損益)	106	91	+14	+16.4%
経常利益	631	614	+16	+2.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	488	404	+83	+20.6%

(単位：億円)

・期初予想からの変更：なし
(2025年5月14日)

想定レート

為替 145円／\$

L Pガス輸入価格 650 \$／トン

(2024年度実績)

為替 153.36円／\$

L Pガス輸入価格 612 \$／トン

1株当たり配当金

2026年3月期

・中間配当：23.5円（実績）

・期末配当：23.5円（予定）

・年間配当：47.0円（予定）

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

13

2026年3月期の連結業績予想としては、

売上高は、 6.0%増収の 9,364億円

営業利益は、 6.2%増益の 491億円

経常利益は、 2.6%増益の 631億円

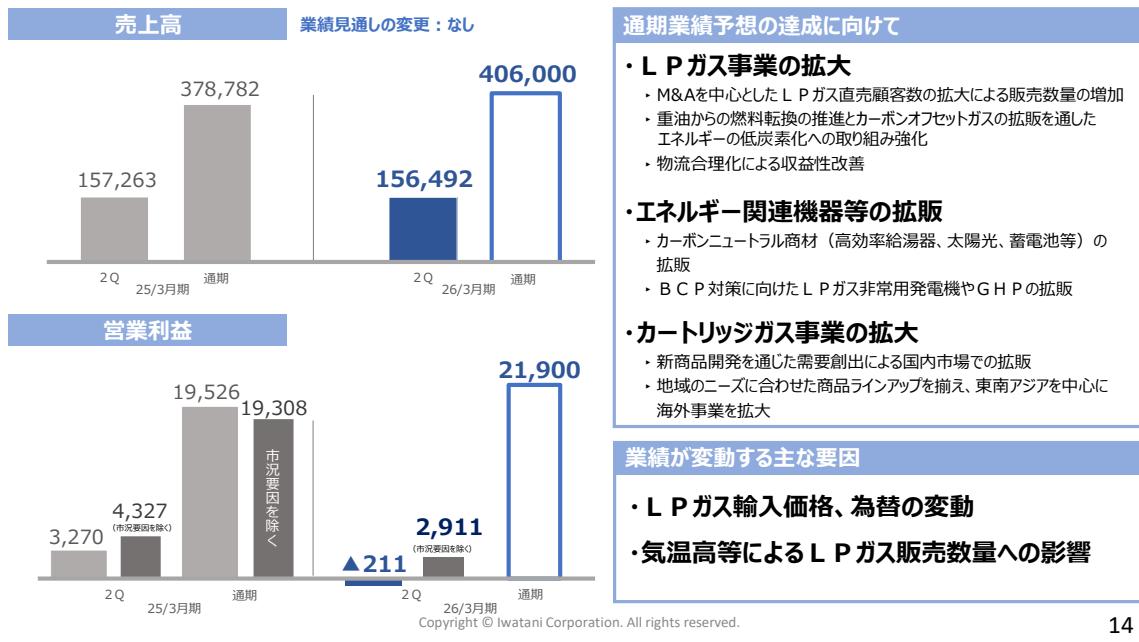
当期純利益は、 20.6%増益の 488億円

と、期初公表の業績予想を変更しておりません。

総合エネルギー事業の見通し

Iwatani

(単位：百万円)



14

総合エネルギー事業の売上高は、4,060億円で7.2%の増収、
営業利益は219億円で12.2%の増益を予想しております。

L P ガス事業においては、M & Aを中心とした直売顧客の拡大に取り組むとともに、物流コスト削減など、L P ガス事業全体の収益性改善を図ってまいります。

エネルギー関連機器では、カーボンニュートラル関連商材の拡販に注力し、成長領域の強化を進めます。

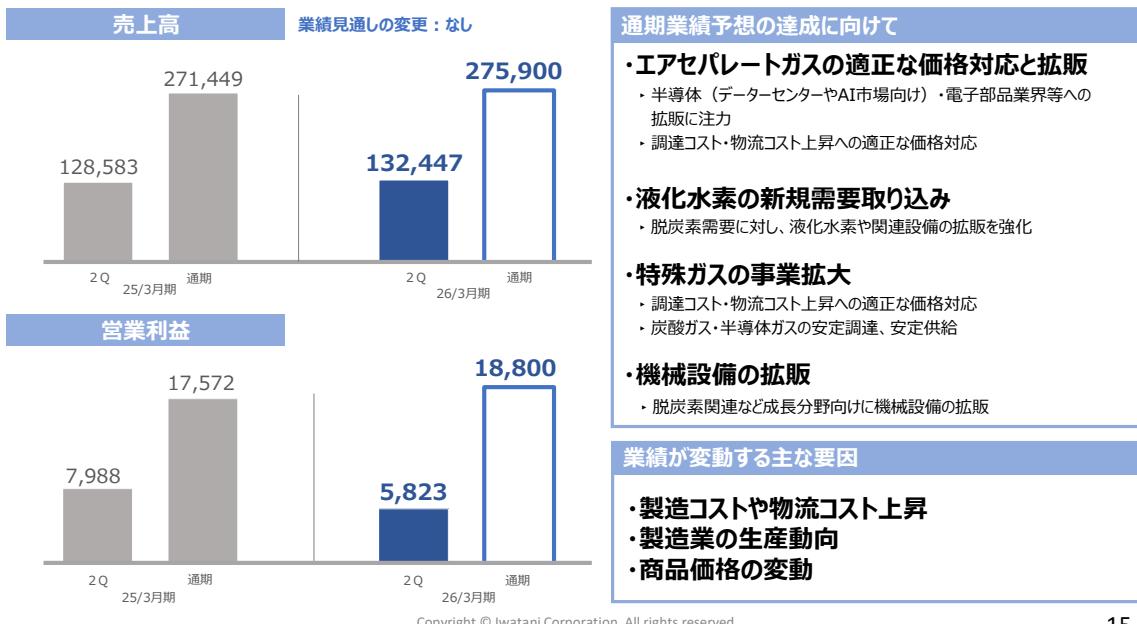
カートリッジガス事業においては、国内では冬場の需要期に向けた販売強化に加え、新商品の開発を通じて、新たな需要の創出に取り組みます。

海外では、タイ工場を起点に、東南アジアへの販路拡大を図ってまいります。

産業ガス・機械事業の見通し

Iwatani

(単位：百万円)



通期業績予想の達成に向けて

・エアセパレートガスの適正な価格対応と拡販

- ・半導体（データセンターやAI市場向け）・電子部品業界等への拡販に注力
- ・調達コスト・物流コスト上昇への適正な価格対応

・液化水素の新規需要取り込み

- ・脱炭素需要に対し、液化水素や関連設備の拡販を強化

・特殊ガスの事業拡大

- ・調達コスト・物流コスト上昇への適正な価格対応
- ・炭酸ガス・半導体ガスの安定調達、安定供給

・機械設備の拡販

- ・脱炭素関連など成長分野向けに機械設備の拡販

業績が変動する主な要因

・製造コストや物流コスト上昇

・製造業の生産動向

・商品価格の変動

15

産業ガス・機械事業の売上高は、2,759億円で1.6%の增收、
営業利益は、188億円で7.0%の増益を予想しております。

まず、ヘリウムについては、下期以降も、市況の軟化が継続すると見通しています。

エアセパレートガスについては、需要が堅調な半導体業界への販売拡大に取り組むとともに、
物流コスト等の上昇に対応し、適正な収益の確保に努めてまいります。

水素事業では、脱炭素用途の拡大に伴う需要に対応し、液化水素および
関連設備の販売強化に取り組んでいきます。

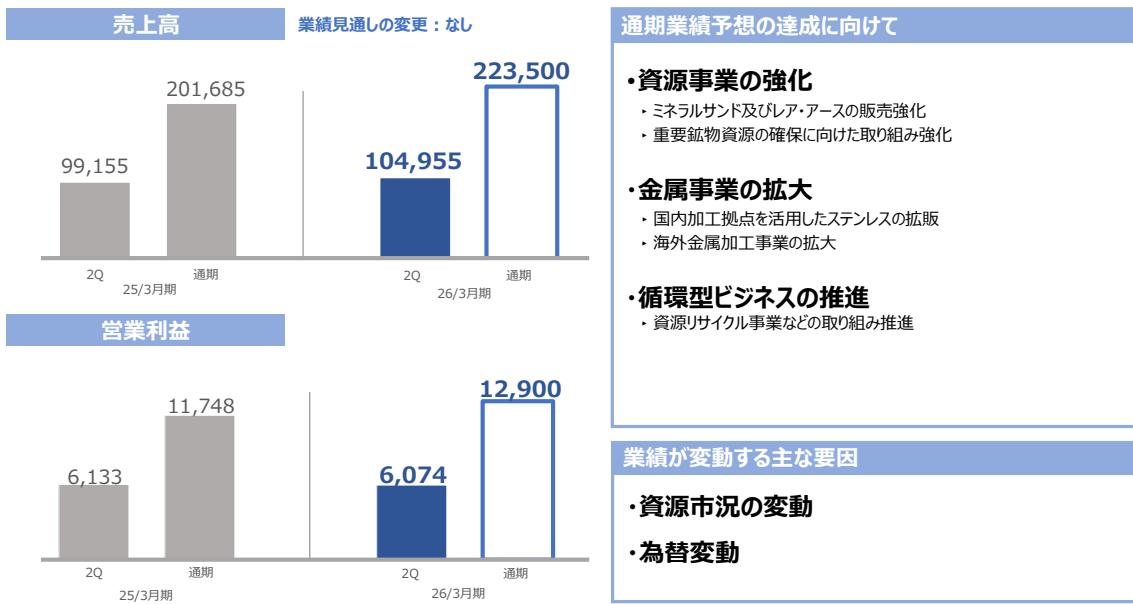
特殊ガス等は、半導体業界向けガスの販売拡大に取り組みます。

機械設備分野では、「水素ボイラー」「水素切断機」「水素バーナー」など、
脱炭素関連商材の拡販を推進し、成長領域の拡大を図ってまいります。

マテリアル事業の見通し

Iwatani

(単位：百万円)



16

マテリアル事業の売上高は2,235億円で10.8%の増収、
営業利益は129億円で9.8%の増益を予想しております。

豪州における自社鉱区の収益性悪化や、機能性フィルムの販売低迷など、
一部商品において厳しい状況が続くと想定しています。

一方で、堅調な低環境負荷P E T樹脂の拡販や、レア・アース等、鉱物資源の
安定調達に取り組むとともに、ステンレス等の拡販に努め、収益を確保いたします。

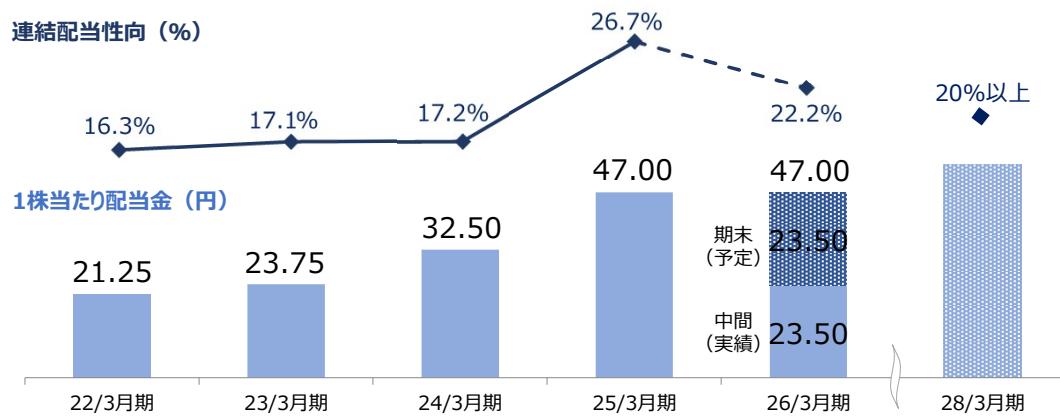
また、資源リサイクルなど、環境ソリューション事業や先端材料の開発にも
取り組んでまいります。

株主還元

【株主還元方針】

累進配当 + 2028年3月期に配当性向20%以上

⇒ 2026年3月期の配当は、中間配当として23.50円を実施、期末配当として23.50円を予定しており、年間配当予想は47.00円



※2024年9月30日を基準日、2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき4株の割合で株式分割を実施しました。記載内容は、当該株式分割後の金額です。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

17

株主還元については、2026年3月期より中間配当を実施し、1株あたり23円50銭としました。

期末配当は同額を予定しており、年間配当は1株あたり47円と期初に公表した金額から変更はありません。

PLAN 27の資本政策では、減配を行わない累進配当を掲げておりますが、今後も、業績や経営環境を考慮し、適正な利益還元を実施してまいります。

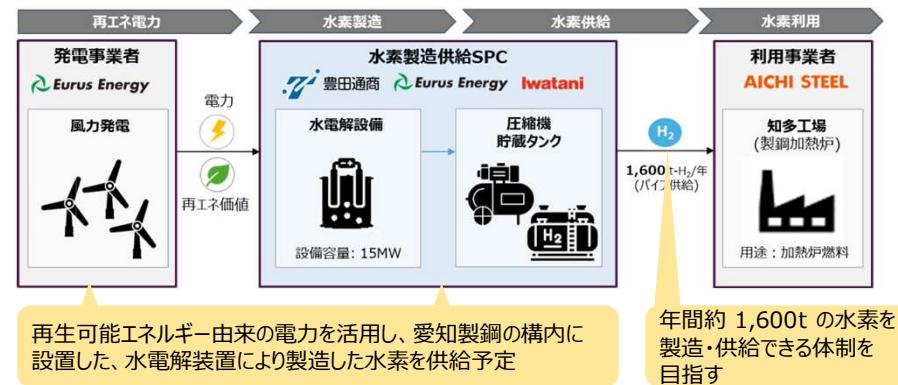
中期経営計画「PLAN27」の進捗

「PLAN27」重点施策の進捗

オンサイト型低炭素水素製造供給事業が 「水素社会推進法に基づく価格差に着目した支援」に認定

- 当社は、豊田通商、ユーラスエナジーの2社と
オンサイト型低炭素水素製造・供給事業の実現に向けた検討を開始
→2027年3月に3社で合同会社を設立し、2030年度の事業開始を目指す

水素戦略



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

19

中期経営計画「PLAN27」の進捗については、当社が豊田通商（株）、（株）ユーラスエナジー・ホールディングスと共同で取り組むオンサイト型低炭素水素製造供給事業に関して、経済産業省より値差支援制度の対象と認定されました。需要家である愛知製鋼（株）（以下：愛知製鋼）の敷地内に、再生可能エネルギー由來の電力を活用して、低炭素水素を製造、供給する取り組みです。

愛知製鋼では、加熱炉の一部において、現在、都市ガスを使用していますが、これを水素に切り替え、エネルギー源として利用される予定です。

当社を含めた3社で、2027年3月に合同会社を設立し、設備の設計、設置を経て、年間約1,600トンの水素製造を実現できる体制を構築し、2030年を目指しています。

「PLAN27」重点施策の進捗

水素戦略

水素燃料電池船「まほろば」に関する東京都との協定書締結

- ✓ 2025年大阪・関西万博にて旅客運航した（乗船者数：約15,000名）、
「まほろば」を活用した事業を、東京都と実施する協定を締結
- ✓ 2026年度内に東京港で運行予定
- ✓ 水素の有用性や水素エネルギーの
魅力等を広く発信



東京都との締結式

【岩谷コスモ水素ステーション合同会社】 商用車向け水素ステーションの建設推進

- ✓ 東京都の平和島と有明自動車営業所に建設
した水素ステーションは順調に稼働中
- ✓ 東京都の新砂にて建設中の水素ステーションは、
2027年頃の開所予定

コスモ石油（株）千葉製油所を活用した、 液化水素製造プラントの建設

- ✓ 2025年度中に事業スキームと生産規模を
決定予定
- ✓ 2020年代後半に稼働開始予定
- ✓ 製造した水素は外部への販売とともに、
製油所内での活用を検討

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

20

先月13日に閉幕した2025年大阪・関西万博で旅客運航に使用した
水素燃料電池船「まほろば」の今後の活用について、東京都と連携協定を
締結しました。

万博開催中は、大阪市内と会場をつなぐアクセスとして運航し、約1万5千人の
方々が乗船され、水素エネルギーを身近に体感いただくことができました。

2026年度からは、東京港での「まほろば」の運航開始を予定しています。
より広く一般のお客さまに乗船いただくことを通して、水素エネルギーの魅力を
引き続き発信してまいります。

次に、需要が高まる商用車向け水素ステーションの建設に関して、
コスモ石油マーケティング（株）との合同会社で運営している平和島と
有明自動車営業所の2カ所は順調に稼働しています。

加えて、3カ所目として、東京都の新砂にFCトラック用のステーションを建設しており、2027年度に開所する予定です。

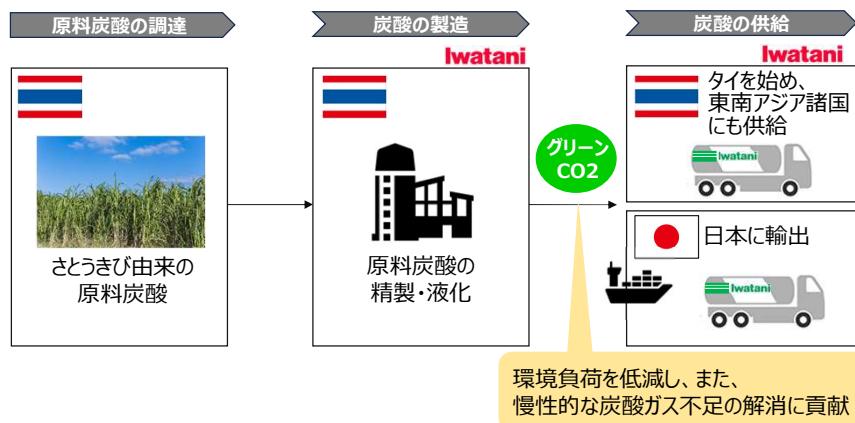
また、コスモエネルギーHDとの協業検討案件の一つである、コスモ石油（株）の
千葉製油所における液化水素製造プラントの建設に関しては、事業スキームの
検討など協議を続けており、2020年代後半の稼働を目指しております。

「PLAN27」重点施策の進捗

脱炭素戦略

バイオエタノール由来の液化炭酸ガスプラントの新設（タイ）

- ✓ 2027年4月 バイオエタノール由来の液化炭酸ガスプラントを稼働予定
- ✓ 「グローバルサウス未来志向型共創等事業」に採択



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

21

タイの現地企業との協業のもと、建設する予定である「グリーン炭酸」の製造プラントについてご説明します。

炭酸ガスは、慢性的な供給ソースの不足が生じており、本件は、さとうきびを原料としたバイオエタノールの製造工程にて発生する原料ガスを精製することで、高純度でグリーンな炭酸ガスを生産するプロジェクトとなります。

経済産業省の「グローバルサウス未来志向型共創等事業」において、補助金交付の対象として承認されており、2027年4月に生産開始を予定しています。タイ国内に加え、東南アジア諸国や日本への供給を目指してまいります。

「PLAN27」重点施策の進捗

海外戦略

東南アジアでの冷媒事業の拡大

- ✓ 東南アジアでは、エアコンや自動車向けの冷媒需要が拡大
- ✓ マレーシアでは冷媒事業会社を買収し、タイ・インドネシアでは冷媒充填工場を増設
- ✓ 使用済みフロンの回収・再生事業も開始
- ✓ 日系空調メーカーを中心に販売が伸長



マレーシアのフロン工場

バンコクサンヨースプリング社の株式取得（タイ）

- ✓ バンコクサンヨースプリング社（BSS社）の株式を100%取得
- ✓ 自動車部品および複写機やデジタルカメラ等の精密部品の金属プレスおよび樹脂成型品等を製造
- ✓ 同社の加工技術を活用し、タイで自動車部品や精密部品の金属プレス加工事業に参入
- ✓ タイを起点とした金属加工品の販売拡大を目指す



バンコクサンヨースプリング社工場内

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

22

東南アジアでの冷媒事業の拡大に向け、エアコンや自動車向けの冷媒需要が拡大する中、2023年にマレーシアの製造会社を買収し、翌年、タイ・インドネシアでは充填工場の増設を行いました。

国際的な規制強化の中、温暖化への影響が、より小さい自然冷媒の取り扱いや、使用済みフロンの回収・再生事業への取り組みが評価され、日系空調メーカーを中心に販売が伸長しています。

今後も、お客様の要望に応えながら、事業拡大に取り組んでまいります。

Iwatani